

科目名	アメリカ文化論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	高橋 康浩	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-330015	国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること			
授業の目的	アメリカ合衆国の歴史を英語文献を通じて、政治、経済、文化等の様々な観点から学ぶ。比較的簡単な英語の資料を多読することによって国際問題に関する教養を身につけて、異文化理解の精神を育成していく。				
学修到達目標	アメリカ文化の学習によって異文化理解の重要性を認識できるようにする。世間に流布している浅薄な考えに流されずに、ものを鵜呑みしないで、自分独自の堅固な考え方を身につけるようにする。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	授業のやり方の説明
第2回	ネイティブ・アメリカンの生活と文化
第3回	植民地時代のアメリカ：ヴァージニアとニューイングランド

第4回	ピューリタニズムの精神
第5回	アメリカ独立革命と建国の父たち
第6回	合衆国憲法の政治思想
第7回	奴隷制と黒人文化
第8回	リンカーンと南北戦争
第9回	戦後の経済発展と社会問題
第10回	アメリカ人の自然観
第11回	革新主義と政治改革
第12回	第一次世界世界大戦と戦間期のアメリカ
第13回	世界大恐慌とニューディール政策

第14回	第二次世界大戦と戦後のアメリカ
第15回	アメリカの民主政治とは何か
第16回	試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	講義形式の授業なので、語学や演習とは異なり毎回定められた予習などは必要ないが、英語のサイトがほぼ教科書となるのでこのサイトの記事は、授業で扱われなかったものをよく日頃から読むようにしているとかなりの実力がつくと思う。英語の読解力やヒアリングなども鍛えられる優れた教育サイトなので、隅から隅まで読んでみるとかなりの知識を得られるだろう。なお予習に定められた時間などはない。自分で納得のいくまで時間をかけるのがよい。学修時間に関しては人から指図される必要はない。そのような些末な事柄に煩わされる必要は断じてない。かくたる日本的な意味のない形式主義を打破することが真のアメリカ理解、国際理解につながっていく。
【復習】時間・内容	この授業では、予習即復習、復習即予習というような境地にいたると思うので、サイトで注目したものがあれば、図書館に行って関連する文献をよく読んでみるとよいだろう。自由な気持ちで学ぶ楽しみを味わってほしい。なお復習に必要な時間は各自、自分で設定して実践するのがよい。学修は自分が納得するまで時間をかけるのがよい。分からないときは質問して欲しい。

成績評価	
評価基準・方法	定期試験60パーセント、小テスト20パーセント、授業態度・参加20パーセントで評価する。
フィードバック方法	学生からの要請があれば、優れたレポートをポータルなどで公表したい。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	

教科書/参考書	笹田直人、堀真理子、外岡尚美 編：『概説アメリカ文化史』（2001年、ミネルヴァ書房）
受講上の留意点等	アメリカ文化を学ぶにあたって、わかりやすい概説書として上記の本を読んでもらいたいでしょう。せっかく恵まれた図書館があるので、図書館の文献もよく調べて、自分の関心のあるテーマについて研究してほしい。ネットの情報だけで満足してはいけません。それだけでは大学で学ぶ意味がないので。
JABEE	